

『5年毎の新職務と 10年毎の充電期間が生んだもの』 (その2)

今ではごく一般的になっているが1977年当時では例が少ない完全共同企業体方式でのいくつかの大型工事の現場で事務や渉外を2年間担当し、大組織をコーディネートすることを学んだ。個性豊かなオーナー系相手企業との現場共同経営では、企業文化、トップの考え方などが大きく違って、話し合っただけで円滑に運営出来ることを身をもって体験した2年間であった。

一方、私生活では1977年5月家内・志能布に巡り会って、7月結納、10月に念願の30歳までの結婚に何とか1か月早く間に合っただけでゴールインした。以後転勤による国内外の転居15回や、その度が変わる国内外の様々な人達との付き合いや、長男と次男の子育てから結婚まで、全てにわたって順調に楽しく過ごしてきたのは家内の能力の発揮によるもので大いに感謝している。郷里岐阜に戻って、FC岐阜の仕事も手伝って貰って感謝の毎日である。

1979年、社内初の事務職留学生に選ばれて、アメリカ、マサチューセッツ州ボストン大学に社費留学した。幸いなことに偶然にも、あの有人月面着陸の時のNASAの副長官の娘を妻に持つボストン大学の工学部長(現在はフィラデルフィアの大学群のシンクタンク所長)の家庭にホームステイした。ご家庭には小4、中1の2人息子の他に学生や社会人5人がホームステイする貴重な体験を得た。

100ドルの超安値の部屋代の条件は、同じ国籍の人は泊めないことと、週5回の一堂に会する夕食の食卓に、自分で料理したオカズ1品を2回提供することだった。つまり、勉強のために来た人達への英語教育の配慮と、各国の料理を楽しみながら話題を欠かさないようにして皆が楽しく過ごせるためであった。

大学やこの家庭内やホームパーティーで知り得た多くの知識人の人達とは、様々な意見交換をすることが出来、私は多くの課題認識の蓄積と多国籍の多くの友人を得て1981年帰国した。入社以来の10年間の全力疾走へのご褒美の自由な2年間であり、次の10年間の貴重な充電期間となった。

帰国後、1981年国際事業部でブルネイ国駐在となり、ホテル建設工事に携わった。しかしこの工事は施工が途中で支払困難に陥り、工事中断の後、ロンドンでの国際調停裁判での係争に発展した。工事関係者の多くは帰国し、数名が残って、持込んだ資機材を現地で売却処分をしながら食い繋ぎながら法廷闘争で闘った。遂に5年後に、相手がすべての和解案項を承諾し

て勝訴以上の成果を得て終結した。この経験は後になって何が折衝の重要なポイントになるかを知るのに役立つ、日頃から重要なポイントを見落さない重要性を学んだ。

訴訟の準備に明け暮れていたが、生活面ではブルネイの地元の有力量者や大使館、JAICA、証券会社、金融会社、商社など日本を代表する皆さんとの家族ぐるみのお付き合いが私を支えてくれ、今も楽しいお付き合いが続いている。

このブルネイの5年の苦勞のご褒美に、1986年国際事業部の米国営業課長になった。

日本では米国本土やハワイへの投資活動が非常に活発な時期であったが、私の市場調査の後、グアムがアジアへの扇の要の立地条件で、20年～30年後には日本のみならずアジア各国から人々が非日常を求めて行くリゾート地になると確信し、社内にもよく説明して決裁を得て、本格的に営業を始めた。営業1年でグアム中の有力な開発可能な土地を調べ上げ、多くの日本企業にホテルやコンドミニアム、ゴルフ場の提案営業を行った。

ブルネイでの経験を生かして案件や施主を吟味した上で、6件1500億を抽出し受注し施工した。途中バブルが弾けて、多くの投資企業が案件を売却して撤退したり、倒産したりの大変動が起きた。しかし、私が担当して受注した企業は勿論バブルで大きな影響を受けたが、お互いの損失が最小限になるように両者合意の上で工事を縮小調整して完成することが出来た。

お蔭で、今も当時のお客様企業はすべて健全な営業を続けておられるのを見るにつけ、あのブルネイの教訓であった「ビジネスは対等の精神」で取り組んだ賜物であり、それを認めてくれた相手企業のトップの皆様感謝している。

今も当時のお客様全員と良い関係を保ち、時折会っては旧交を温めている間柄で、この方々のお蔭で今の自分があると感謝している。

試合日程

10/22 (土)	15:00	vs	FC町田ゼルビア
11/ 3 (木・祝)	18:00	vs	ザスパクサツ群馬
11/ 6 (日)	13:00	vs	横浜FC
11/20 (日)	14:00	vs	東京ヴェルディ

お問合せ先

 **岐阜フットボールクラブ**
Tel.058-231-6811

FC岐阜